

## 『自治会だより』－ 自治会創立 45 周年特集号 (2015 年 7 月発行) －より

※以下、「特別アンケート」までの原稿は 2015 年 3 月頃に書かれたものです  
一部に 2020 年 1 月の追記があります

### このまち・思い出

#### (1) 遊歩道に灯がついた頃

小林 侯夫<sup>よし</sup>

妻と共に現在の住いに入居したのは 1969 年 (昭和 44 年) 2 月。大工さんが小屋掛け泊り込みで建てた家です。遊歩道以外は赤土の造成地。午前 7 時に霜柱を踏んでバス停 (前沢住宅) へ。都内での勤務を終え、池袋で妻と待合せて帰宅、という日課が始まりました。大雪の朝、扉が開かず吹き溜り状態。さけられないぬかるみ道、ポツンと駐車する車まで気になる一軒家住まいだったのです。

そんな或る日、バスを降りて目を疑った。前沢一帯の天地が野球場のナイターか。遊歩道の街路灯が一斉点灯したのです。しかも朝まで、来る日も来る日も。このまばゆい光のもと、次々住宅が建ち上っていく感動は今も忘れません。

翌年、市制が敷かれ、やがて前沢四丁目自治会も発足しました。後に同居した父も発起人の一人でした。公団分譲地周辺を含めた一帯の環境規制をして将来に亘る地域の安定を要望したり、「つばき公園」を名称通りに椿の木で満たすように、具体策を提案するなど部分的に覚えています。

私は自治会に主だって参加できませんでしたが、半世紀を振り返り町内の方々と直接間接にふれ合って学ばせていただきました。

(追記 2020. 1. 19) 今年は久しぶりに子どもたち家族とお正月を祝いました。その席でのこと、今夜も高輝度の水銀灯に照らされた遊歩道や花壇、整った公園に感慨を燃やしているのは、ひとり私だけではありませんでした。口々に思い出を語り満足の様子でした。改めてこの地を今日たらしめた地域活動、その最前線に立たれた自治会役員、有志の皆さんのご尽力に心より感謝申し上げます。

#### (2) このまち、ありがとう

新舟 清

ここに家を建てて住んだのは、1969 年 (昭和 44 年) の 8 月でした。当時、家の西側、北側には、広々とした空き地、畑が多く、空き地には大人の背丈ほどの雑草が一面に生い茂っていました。春には、多くの雲雀が空に舞い、しきりにさえずっていました。二階からは富士山が眺められる日もありました。

その後、家が増え、滝山二丁目、三丁目の団地が建てられ、滝山公園、滝山球場が造られ、空き地はなくなり、畑は減っていきました。気付くと、富士山は眺められなくなり、雲雀の姿も見られなくなっていました。

このまちは、畑が一面に広がっていた土地に、日本住宅公団が計画した、滝山団地を中心にした住宅地でした。建物より先に道路が整然と造られていました。家が増え、きちんとした感じの住宅街が出来ていきました。ショッピングセンター、市の滝山出張所、西部地域センター、郵便局、銀行、病院等がまちの中央にまとめて配置されていて便利です。道路が広いのか、まちの空が明るく感じられます。街路樹のケヤキも太くなり、夏には心地のよい木陰を作ってくれるようになりました。よい住宅地になったと、ありがたく思っています。



1971 年頃。柴田ふとん店前からバス停方向。滝山団地（第 2）や西中が見える



2015 年、同地点から

### （3）思い出

井上 千代子

前に住んでいました横浜・反町三ツ沢から、今度家を建てる所（土地）を家族で見に来た時のことを思い出します。

武蔵小金井から前沢までの距離がとっても長く感じました。

滝山公園から前沢・・・あの辺だなあ・・・と眺めながら、周りには何も無い。毎日のおつかい・・・どういう生活になるのか？とても不安でした。

私はあまり乗り気ではありませんでした。

今は、前沢に住まわせて頂いていること、義父にも周りの方々にも本当に感謝です。

### （4）自治会発足事情？

市川 精治

私が前沢四丁目の住人となったのは昭和 45 年 5 月で、その 2 か月前に自治

会は発足していた。私は伊藤会長の勧めですぐ自治会に加入し、翌年は地区の役員にもなった。その伊藤会長から、「当初、この美しい環境を壊そうとする動きがあり、それを阻止するために自治会がつくられ、皆の一致団結により今日の繁栄が実現した」と教わった。いまでも、伊藤会長の温顔を思い出し、当時の役員みんなの粉骨砕身のご苦労を思うと感謝感激の虜となってしまう。

役員としての最初の担当は「交通安全」だった。当時滝山地区は、別名「陸の孤島」といわれ、バスが唯一の交通手段だった。西武バスが時刻表通りに発着しているか、バス停「前沢住宅」に陣取って一日中チェックしたり、滝山団地自治会の担当者と一緒に西武バスの本社へ出向き、「深夜バスの時間延長」を要求したり、西中の一室へ西武バスの担当者呼んでバス交通に関する諸問題をぶっつけたり、いま思うと「とにかくよく動いたなあ！」の感想頻りである。必要の都度、伊藤会長に報告に行くと、必ず相好を崩し、「ごくろうさまでした」と労ってくれた。伊藤会長の温顔はいまでもしっかり記憶していて、ときどき思い出したりしている・・・。

平成10年に会長をお引き受けし、以前の東久留米市庁へ行き、当時の稲葉市長と一対一で前沢四丁目内にあった消防署待機寮の改変の件で語気鋭く迫った(?)が・・・稲葉市長の「ダメなものはダメです」の返答に刀折れ矢尽きた感じに見舞われたことも忘れられない思い出である。

こうした「なつかしい思い出」は、いまでも私の頭の中に連綿と脈打っていて、いまの前沢四丁目自治会の諸活動をはかる「物差し」となっているようである。発足当時のあの力強いエネルギーと協調精神をもってすれば「前沢四丁目自治会の前途は洋々なり」とひそかに思っているのだが・・・。

いまでも一つの疑問が私の頭に残っている。自治会発足当初、現在でも有効の「会則」を、誰が、どのようにしてつくったか。「会則」がつけられたはずの当初事情を、私は伊藤会長にとうとう聞きそびれてしまった。残念至極である。

最後に、前沢四丁目自治会の生生発展を祈り、擱筆とします。

## (5) このまちに暮らして

鷺嶺 昭子

早いもので、借り上げ社宅として前沢四丁目に居を構えてはや四十数年。子どもの出産に向け、環境のいい所を探していたところ、広いお庭にちいさな家、周りは桜並木の遊歩道、整然と整った瀟洒な家並、道の向こうは広い畑と高い空、子育てには願ってもない場所を見つけました。この機会に改めて考えてみますと、いろいろ脳裏に浮かぶと同時に環境の変化に驚く次第です。

まず、この時期には高い空でヒバリが歌い、そこに鳥かごを持ったおじさんが芝生畑に空でさえずるヒバリの声を聴かせ、いいハーモニーを奏でていまし

た。隣の畑はウド畑、その後5～6年でキャベツ畑・大根畑に変わりました。また、昭和50年前後から54年頃まではよく雪が積もり、子供たちは畑でソリ遊び、道路ではスキーもやり楽しみました。懐かしい……。どちらの畑も今は住宅となり賑やかになりました。



(雪の朝。奥に西中が見える)

## (6) 春になると

山本 純子

我家は、昭和四十九年に滝山団地からここ前沢四丁目に越してきた。「犬が飼える」と二階へ上ったり降りたりして喜ぶ姉と、「滝山のお家へ帰ろうよ」とベソをかいていた妹。二人は今、五十歳と四十四歳、年頃の子を持つ多忙でしっかり者の親である。私は高齢者の仲間入り、そして旅行を楽しもうと言っていた夫は、予測もできなかった彼岸へ旅立っていき、一人暮らしとなった。遠い親戚よりご近所の大切さ有りがたさを身にしみて感じている。自治会もこうしたテーマに役割を担う時代になってきた。



1979年 左の雑木林は現在ガソリンスタンド。正面奥に消防署が見える

景色も大分変っていった。二階から見えた富士山も直に見えなくなり、雑木林が消え畑が減って、マンションや新築が増え、世代交代であろうか改築の家も多く見られる。その新しい景色は、前沢四丁目が若い世代へと時代が移っていく象徴であろうと、頼もしく嬉しく眺めている。

さて、ご存じでしょうか。春になると、ガソリンスタンドの裏側の溝伝いに濃い紫色のすみれが列をなして咲くことを。実はこのあたりは雑木林で、一本の山桜が花と若葉を絶妙なバランスで咲いていた所。木々の間、陽の当たる所にすみれやタンポポが咲いていた。すみれはこの子孫であろう。コンクリートのわずかな透き間に根をおろし咲き続けている。

自治会四十五周年にあたり、このすみれに重ねて思う。しっかり根をおろし、みんなの為にあり続ける自治会であってほしいと願ってペンを置く。

## (7) すっかり故郷に

塩谷 恭弘

前沢に居住して30年が過ぎようとしているが、子供が学生から勤め人、そしてこの地から嫁に、年に三度程地方から帰ってくる。すっかり故郷になっている。



1979年 遊歩道の桜 高野駐車場横から

表通りは何れ所か建物や店が増えたり変ったりしているが、滝山公園、遊歩道、キャベツ畑やとうもろこし畑、桜の木はもちろん大木になってきているが、ほぼ30年前と変わらず。

都心から1時間足らずのこの地は太陽をあおぎ、鳥の声で目覚められ、年を重ねるごとに幸せを感じる落ちつける地域である。

## (8) 大切にしたい終の住みか

加藤 吉子

前沢四丁目は、東久留米市全体の中でも、交通機関は西武池袋線を利用するにしても新宿線又は中央線を利用するにしても大変便利でアクセスが良いと思います。大きな道路もあり、都心に出るのには少し時間がかかりますが、日常生活の面では十分かと思います。

滝山公園が近くにあり、桜並木等自然も豊かで私は好きです。転居して八年、静かな朝を大切に、季節のうつり変りを楽しんでおります。又、皆さんが一生懸命に育てられている野菜が、どのようにしてどの時期など知らないことが多かったのですが、いつも美味しく安心していただいております。これからも皆さんのご協力を得て楽しく残された時間を過ごされたいと思い、土地を大切にしていきたいと思っております。

## (9) このまちに暮らして

今井 敏仁

練馬から東久留米に転居して、はや26年。前沢四丁目に家を構えて19年経ちました。ゆったりとした環境とご近所の皆さま方のお蔭にて、当時小学生と幼稚園児だった子供達も、今は社会人として仕事に追われる毎日です。

小生も、当時は出張、出張の毎日で、時には1週間に2度北海道に行くこと

もしばしばの毎日。仕事や出張の帰りにバスを降りて遊歩道を歩くと、澄んだ空気と高い空、緑いっぱいの景色に包まれた瞬間、えも言えぬ安堵感に包まれました。他界した両親も、生前「桜並木の遊歩道と公園が近くて良い所だ。」と言っておりました。また「年2回、側溝やごみボックスの掃除を近所の方とやるんだよ」って話すと、「ご近所の方々に恵まれて良かったね。」と喜んでおりました。今年も、そろそろ遊歩道の桜が咲く頃となります。この一年、家族それぞれ色々ありましたが、お蔭様で新しい春を迎えられます。皆様方に感謝、感謝。

## (10) 早春の小鳥たち

森川 玉江



シジュウカラ つばき公園近くで

滝山公園に隣接し、遊歩道もある前沢四丁目。早春は小鳥観察の絶好の季節です。

私は、朝のラジオ体操で小鳥と出会います。「ツピーツピー」と鳴く<sup>しじゅうから</sup>四十雀は黒いネクタイ姿。「ツッピー」とツがもう一つ入る赤い腹の<sup>やまがら</sup>山雀。チィッチィッと鳴きながら少し小さい<sup>ひがら</sup>日雀は梢の上方に、小雀は中程で渡っています。

両手を広げ空を見上げた時、枝先で一羽がじつと昇る陽を見つめていました。記憶の辞書を繰って「あれは旅立ち前の<sup>つぐみ</sup>鶇だ」と嬉しくなりました。

三月三日の朝、久し振りに「フィーフィー」と鶇が鳴きました。梅や桜の花芽が好物です。「ギィッ」と鋭く尾長が西中の針葉樹に消えました。家に帰ると、<sup>めじろ</sup>目白の夫婦がより添って「チィ チョ チュ」と餌を待っていました。梅の木の餌籠に蜜柑を入れると鶇にサーッと横取りされました。畑のブロッコリーの葉を食べ尽くしたのも鶇の群です。

そろそろ小鳥たちの愛の季節が始まります。



ツミの雛4羽、つばき公園脇 2019. 7. 3

(追記1) 早春の遊歩道散歩は小鳥の声に包まれます。樹立を見上げると尾を振り餌をついばんでいる。あれ、誰だっけ？ 判るのは、羽や<sup>くちばし</sup>嘴、尾羽の長さ、鳴き声などがポイントです。

昨年春に、つばき公園脇遊歩道の桜の高樹に雀鷹(ツミ)が巣を造ったと、これまで桜並木や七小の桜で雀鷹観察を一緒にした高井さんが教えて下さいました。希

少な雀鷹は日本では最小の猛禽鳥。<sup>からす</sup>鴉も怯え近寄りません。オスの方が小さく、雛に餌を運びます。メスは雛を羽で覆い育てる。多くの方が巣立ちまでを見守りました。私も朝夕それを見つめました。この時、我が家の柚子の樹に雉鳩が雛を育てていました。初めてのことで驚きました。近くで尾長も巣作りしていました。雀鷹の巣に近く、鴉から守られたようです。7月の始め雛たちは飛び立ち、親たちも姿を消しました。

(追記2) かつて、東久留米はお狩場でその時の出城が黒目川と落合川の合流地にあったと、今発掘されています。近隣市だけでなく三鷹・国分寺の先まで鷹狩りがされたと聞いています。前沢宿は、その頃の宿場。辿れば、小仏や小さな社なども残っています。

今年も雀鷹に逢いたいと、今私は春を待ってドキドキしています。(2020年1月9日記)

## (11) シダックスがあった頃

広瀬 新平

9年前、当地に居を構えようと決めたのは秋だった。翌春、建築中の家を見に来て、バス停で降り、遊歩道を見上げた時の感激。満開の桜並木が入口からアーチとなって数百メートル。豪華絢爛(と思った)。振り返れば5丁目方面も。すご〜い。思わずカメラのシャッターを切った。



両側から桜の枝が張り出しアーチに  
バス停前から 2006.3.31

住み始めて近所を散歩。バス通りに得体のしれない建物がある。恥ずかしながら「シダックス」を知らなかった。いや、名前だけは聞いたことがあったかもしれない。なんでこんな住宅街にあるのだろう。お客なんて来るのかしらん。まあ、せっかくだからどんなところか「見てみる」のも悪くない、と思っていたところ、娘のいここがわが家に。一緒にシダックスに行ったという。「パパも今度連れてって」。言下に「イヤダ!」。それはな

いだろう。親不孝者めが、そんなだからその年で結婚できないのだ、と腹の中で毒づいた(口に出したら今頃生きていない)。

桜の木はいつの間にか少なくなった。シダックスも消えた。2年前に娘も家を出た。まだ結婚はしていない。(絶対匿名を希望)

(追記 2020.1.14) 桜の木はこの5年の間にさらに5本なくなった。「わたし一生結婚しないかも・・・」と言っていた娘は4年前に結婚し子をもうけた。

## (12) 前沢ときわ会について

岡本 進

聞くところによると、昭和50年に市役所から前沢四丁目自治会会長井上倉次さんへ老人会の立ち上げについて話があったようです。2年間の準備を経て、発起人は押田統助さん、小林敏夫さん、井上倉次さんの3人になり、昭和52年6月に『前沢ときわ会』が発足しました。会長は押田統助さん、会員50名でした。



演芸大会で唄うエンゼルス

市役所からの要件は50名以上の会員が必要とのことでしたが、当時はお年寄りが少なく、50歳代の女性にも入会をお願いするなど、会員集めはたいへん苦勞されたようです。

創立に向けての世話人会で、女性からの提言により、「老人」を感じない名前ということで『前沢ときわ会』という名称がすんなりと決まったといえます。

昭和55年に松下広志さん（元自治会長）がゲートボール部を立ち上げました。また、平成8年には山本國男さん（元自治会長）が歌謡クラブ『エンゼルス』を15名で発足させ、現在も大勢で楽しんでいます。

前沢ときわ会は楽しいことがいっぱいです。グラウンドゴルフ、ターゲットゴルフ、輪投げ、ペタンク、健康体操、歩こう会、小旅行、カントリーダンス等、会員は自分の好みの行事に楽しく参加しています。健康で長生きが一番です。皆さんの入会をお待ちしています。

### ＜資料＞前沢ときわ会歴代会長

|         |       |
|---------|-------|
| 昭和52年度～ | 押田 統助 |
| 昭和54年度～ | 井上 倉次 |
| 昭和55年度～ | 松下 広志 |
| 昭和59年度～ | 小林 敏夫 |
| 昭和63年度～ | 渡辺 浩二 |
| 平成 3年度～ | 塚原 俊雄 |
| 平成 6年度～ | 山本 國雄 |
| 平成10年度～ | 吉浜 雅夫 |
| 平成20年度～ | 下村 博  |
| 平成22年度～ | 小柳 リウ |
| 平成26年度～ | 鈴木 清澄 |
| 平成28年度～ | 小柳 リウ |
| 令和 元年度～ | 鈴木 勲平 |



（前沢ときわ会ゲートボール部。「20年のあゆみ」より。昭和57年の久老連大会で前沢ときわ会は2チーム出場し、優勝、準優勝を占めた。）